発行：岡山大学広報課

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 126
2026.10

OKAYAMA UNIVERSITY

TOPICS 1 次期国立大学法人岡山大学長予定者の決定について



国立大学法人岡山大学学長選考・監察会議は、かねてから選考中であった国立大学法人岡山大学長適任者として、那須保友氏を選考し、次期国立大学法人岡山大学長予定者と決定いたしました。

任期は、令和9年4月1日から令和14年3月31日までです。

参考　https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15790.html

TOPICS 2 岡山大学が第8回輝く女性研究者賞（ジュンアシダ賞）を受賞

本学は、JSTが女性研究者の活躍推進の一環として、持続的な社会と未来に貢献する優れた研究などを行っている女性研究者およびその活躍を推進している機関を表彰する「第8回輝く女性研究者賞（ジュンアシダ賞）」の受賞者に選ばれました。10月25日には、東京国際交流館 プラザ平成にて表彰式が開催され、本学から那須保友学長はじめ関係者が出席しました。

本学は、2009年に全国に先駆けて「ウーマン・テニュア・トラック（WTT）制」を導入し、女性研究者の採用から育成、昇任、リーダー育成までを一貫して支援する仕組みを構築しています。WTT制により42人の女性特任助教を採用し、うち11人が准教授、6人が教授へ昇任しています。また、女性講師・准教授を教授へ登用する上位流用制度や、研究・教育・管理運営能力を体系的に養うリーダー育成プログラムを整備し、将来のリーダー育成を推進しています。本学は今後も、女性研究者の活躍推進と次世代のリーダー育成に取り組んでいきます。



参考　https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15788.html

Pick up!

ピックルボール体験会を開催 ―スポーツから始まる地域共創―



本学研究・イノベーション共創機構は9月29日、両備アリーナにおいて、「岡山大学ピックルボール体験会」を開催しました。本学の学生・教職員、美作市関係者、企業関係者など、約40人が参加しました。

ピックルボールは、アメリカ発祥のニュースポーツで、近年、国内外で注目を集めています。体験会のスタートを飾る企画として、那須学長と春名副市長による「記念オープニングラリー」を実施。その後、那須学長も学生や参加者と一緒にラリーを楽しみました。最終ラウンドでは、「学長とラリーしてみたい」という学生が一人ずつ那須学長とラリーを行う特別セッションも実施し、学長と学生が同じコートに立って交流する、本体験会を象徴する場面となりました。

会場では、学生、大学教職員、自治体・企業関係者など、所属や世代の異なる参加者が同じコートに立ち、声を掛け合いながらラリーを楽しむ姿が見られ、スポーツを通じた交流の可能性を実感する機会となりました。

参考　https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15738.html

TOPICS 3 研究開発マネジメント人材に関する体制整備事業に関する決起集会を開催



本学は10月から、文部科学省「研究開発マネジメント人材に関する体制整備事業」における研修生2人の受入れを開始しました。10月2日には、事業関係者および研修生が一堂に会する決起集会を本学津島キャンパスの共創イノベーションラボKIBINOVEで開催しました。

第1期受入（2026年10月～2027年9月）では、島根大学の井上航URAと千葉大学の髙橋唯樹URAが、本学研究・イノベーション共創機構の参事として本事業に参加し、1年間の研修等を受けます。

決起集会は、井上参事と髙橋参事の目標や抱負を共有するほか、事業責任者である佐藤法仁副理事（研究・産学共創総括担当）・副学長（学事担当）・上級URA、研修メニュー担当者、メンターおよび事務局関係者が一堂に会し、相互の交流を深めるなどの目的のために開催されました。

研修メニューの紹介とともに担当者からの期待等も述べられ、活発な意見交換が行われました。参加者は、それぞれが本事業への期待と責任を感じながら、これから始まる研修に向けて決意を新たにする有意義な場となりました。

参考　https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15747.html

TOPICS 4 令和8年度秋季岡山大学入学式、大学院入学式を挙行



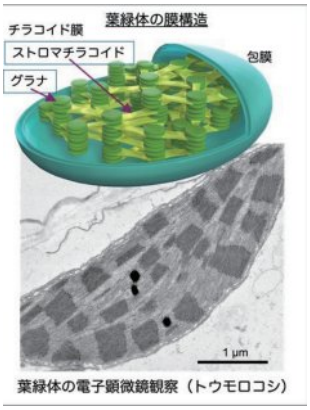
本学は10月1日、秋季入学式を創立五十周年記念館で行い、新たに入学したグローバル・ディスカバリー・プログラム学生27人と大学院生109人が大学生活へのスタートを切りました。

式では那須保友学長から「今日、皆さんは学業と人生の新たな門出に立っています。一歩前に踏み出し、新しい道を切り拓くために挑戦してください。私たちは皆さんとともに歩み、支えていきます」と式辞がありました。

新入生を代表して、グローバル・ディスカバリー・プログラムのPHAM NGUYEN TUE ANHさんが、「私たちは世界のさまざまな地域から集まり、それぞれが自分自身の個性やアイデンティティを大切にしています。だからこそ、多様な視点を岡山大学のコミュニティにもたらし、意義あるつながりと団結を育んでいきたいと思います。2026年度の新入生として、私たちは尽きることのない熱意と互いの支え合いをもって学業に励み、すべての人にとって持続可能で公正な社会の実現に貢献することを目指します」と宣誓しました。

参考　https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15700.html

PRESS RELEASE 光合成の足場を守るタンパク質VIPP1の進化を解明 ―VIPP1の誕生は足場である「チラコイド膜」の誕生よりも以前だった―



葉緑体の電子顕微鏡観察（トウモロコシ）

植物の光合成は、細胞内の葉緑体にある「チラコイド膜[1]」で行われます。チラコイド膜には光合成に必要なタンパク質複合体が並んでおり、いわば光合成の「足場」です。この膜を作り、維持し、環境変化に応じて作り替えるために重要なのがVIPP1（Vesicle-Inducing Protein in Plastids 1）です。VIPP1は多数の分子が集合して膜に作用する「膜リモデリングタンパク質」で、高温や強光などのストレス下でもチラコイド膜を維持する働きが知られています。

岡山大学学術研究院先鋭研究領域（資源植物科学研究所）の坂本亘教授、岡山大学資源植物科学研究所 非常勤研究員のAlexandre Muhire（ムヒーレ アレクサンダー）博士らは、国立台湾大学のMing-Yang Ho教授との共同研究により、VIPP1とその祖先型であるPspAの進化を解析しました。その結果、VIPP1は現在のようなチラコイド膜が成立する以前にすでに誕生しており、その後、異なる光合成生物の進化の中で繰り返しVIPP1が保持されたことを明らかにしました。

参考　https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1628.html